

評議員会議事録

日 時：2005年10月7日（金）12:30--13:40

場 所：札幌コンベンションセンター1階 会議室1

出席者：井上，太田，岡村，海部，小山，柴田，須藤，千田，高橋，舞原，牧島，家，梅村，大橋，谷口，
観山，山本 以上17名

有効委任状提出者：吉井，安東，池内，小杉，佐藤 以上5名

欠席者：高原，福井 以上2名

他に理事会から，祖父江理事長，黒田副理事長，花岡，杉山，北本，関井，百瀬理事，および東條事務長が
参加した。

議事に先立ち，議長および署名人を選出した。

議 長：梅村雅之

署名人：小山勝二，谷口義明

報 告

1. 前回議事録の確認(資料1)

花岡理事より前回(2005年7月9日)の評議員会議事録が報告され，承認された。

2. 開催中の年会について

百瀬理事より開催中の年会について，講演数は752件で過去最高であり，参加者は900名に迫る勢いで
ある，大変盛会で順調に進行している，という報告がされた。

3. 中教審への要望書-次代をになう子どもに豊かな科学的素養を-(資料2)

祖父江理事長より上記学会声明を中教審の会長および初等中等教育分科会長宛てに送った，これにつ
いては7月22日に記者会見も行った，との報告があった。最新の天文学的成果を子どもに伝えられるよう
要望するものである。

4. 年会実行委員の増員(資料3)

百瀬理事より，保育室担当を想定して梅本氏に新たに年会実行委員として加わってもらうことについて
理事会で承認された旨報告があった。

5. その他

(1)東アジア天文台会議について

海部評議員より，東アジアの中核天文台による天文学協力についての会議が国立天文台で開催され，今
後東アジアにおける天文学の発展に重要な貢献が期待される，との報告があった。

(2)日本学術会議(総会・部会が10月3～5日)の報告

海部評議員より，学術会議について，組織の大きな変更が予定されていること，メンバーを学協会から
推薦する従来の形から会員・連携会員を個人として選ぶような形になること，が報告された。天文研連
に代わるものとして，物理学委員会の分科会として天文関係で分科会をもてないかという案を持って
いるが，すぐに機能するものが作れるかどうかは不明である，ただ国際対応など急ぎの対応を考えな
ければならない場合の対策は別に考えている，とのことである。いずれにせよ学術会議に対する学会の役割
が小さくなる方向である。

(3)天文オリンピックについて

花岡理事より，科学振興事業団の援助を得て2名がオブザーバーとして今年の天文オリンピック(10月
末～11月初め，北京にて)に参加することになった旨報告があった。

(4)「すざく」衛星について

井上評議員より，すざく衛星の現状について，マイクロカロリメーターは不調であるものの，X線望遠
鏡・CCDカメラのシステム，硬X線検出器は順調である旨報告があった。改めてすざくによる公募観測
の募集のアナウンスをするとのことである。

(5)内地留学奨学金受給者

2006年度内地留学奨学金受給者が決定されたことについて花岡理事より報告があった。

(6)講演謝金について

北本理事より、今まで1万円であった公開講演会等の講師への謝金を、評議員会からの意見等に基づき、3万円に値上げした、との報告があった。

(7)世界天文年について

海部評議員より、2009年を世界天文年とするという提案がされていることについて、ユネスコにこの提案が提出されており、制定へ向けて前進中である旨報告があった。

(8)男女共同参画連絡会について

黒田副理事長より、3名が天文学会側の担当者となって活動を開始している、夏休みの女子高生夏の学校に天文学会としてブースを出してポスターを掲示した、残念ながら担当者が直接参加することはできなかったがハワイの林 左絵子氏とチャットをしてもらった、運営委員会にも参加している、との報告があった。もっと女性の担当者を入れたい、とのことである。

(9)科研費データベース

家評議員より、作成中であった科研費データベースについて、1985年以降の分についてほぼ完成に至った、次回の評議員会あたりでデータの分析結果も提示したい、との報告があった。

議 題

1. 早川幸男基金について

評議員会で、現在の早川基金の配分方法について再検討をしてみる余地があるのでは、という指摘があったのを受けて、早川基金委員会で議論が行われ、新たに提案が行われていることについて意見交換を行った。支給対象として滞在費やレジストレーションなども考慮の対象ではないか、学振研究員の扱いや、支給されたことのある人が再度申請した場合の扱いをどうするのか、などという意見が出された。また天文財団でも援助をしており、早川基金側のルールとの関係も明確にすべき、との指摘もあった。今後委員会では、変化しつつある現状をじっくり見つつ、できるだけ多くの若手に出張してもらおうという趣旨に従って、あるべき姿の議論を行っていくこと、となった。

2. 年会講演数増加への対応(資料4)

百瀬理事より、年会での講演数が大変多くなっており年会を3日間・7会場並行で行うのは無理になりつつある、対策としては会場の並列度の増加、日数の増加、講演時間短縮、全体セッションの並列化などが考えられる、との報告があった。懇親会についても、現在のようなやり方で開催地理事が引き受けては大変である、との指摘があった。これとは別に、準会員は会費が安いにもかかわらず正会員と同じ資格で発表ができるためその扱いの再検討の必要性が指摘されているが、特に今回準会員の発表の割合が増えている、との指摘もあった。年会の方式については、あまり並列度を上げないほうがよいのではないか、合同セッションのようなことをできないか、ポスターをもっと活用できないか、ポスター3分講演の扱いは見直す必要はないか、などという意見が出された。なお、銀河と高密度天体のセッションは現在規模が大きくなりすぎているため次回から分割の予定、とのことである。

3. Asian-Pacific Journal について(資料5)

祖父江理事長より、新たな天文学学術雑誌として Asian-Pacific Journal を発刊する構想がある件について、ジャーナルワーキンググループ委員長のH.M.Lee氏より正式に具体的なスケジュールの提示と検討の依頼があったこと、具体的内容についての問い合わせをしていること、今年中に letter of intents の返事をもらいたいと言ってきていること、について報告があった。日本天文学会として Asian-Pacific Journal にどうかかわるのか、PASJとの関係をどうするのか、について、PASJ編集委員会では、両方に真剣にかかわるのは大変である、PASJを発展的解消(PASJを Asian-Pacific Journal へ拡大)するくらいのもりで参加すべきである、という意見が多かった、との報告があった。PASJ編集顧問からは、PASJと Asian-Pacific Journal 両方に学会としてかかわってはどうか、という意見が出されている。Lee氏が具体的にどのようなことを想定しているのか本人が日本に来たときに直接議論できないか、ジャーナル出版とはどういうものかPASJの実情をもっと知ってもらってはどうか、などの意見

が出された。PASJ編集委員会、顧問、理事会、評議員会でこれについて引き続き検討していくこととなった。

4. 夜空を守るため高速道路上向き照明の禁止についての要望書(資料6)

祖父江理事長より、星空を守る会と協力して作成している「高速道路における上向きサーチライトによる照明禁止の要望」の文案について紹介があった。要望書は出す相手によってそれぞれ適切な内容になるように変えてはどうか、エネルギーの無駄という点を強調すべきでは、という意見が出された。

5. その他

(1)評議員の任期満了 祖父江理事長より、評議員のうち今年末で任期満了となる方に対して挨拶があり、また来年から新たに評議員になる予定の方について紹介された。(2)次回以降の評議員会日程

次回は2006年1月28日(土)11:00より国立天文台(三鷹)で開催、次々回は2006年春季年会中開催する。

2005年10月27日

議長 梅村雅之

署名人 小山勝二

署名人 谷口義明